

代表取締役
川崎 元士



株式会社ナールスコーポレーション

京都市西京区京都大学桂 船井交流センター102

☎ 075-748-9524

https://www.nahls.jp/

プロフィール

薬学博士。1983年東京大学大学院薬学系研究科修士課程を修了し、公益財団法人相模中央化学研究所にて研究員となる。その後、米国オレゴン州立大学にて博士研究員となり、1990年から大日本製薬株式会社（現・住友ファーマ株式会社）にて探索合成・医薬品開発等に従事する。2010年から長岡実業株式会社での技術部長を経て、2018年より株式会社ナールスコーポレーション勤務。翌年、代表取締役社長執行役員となる。

ブランド名
「ナールスゲン®」および
「ナールスゲン含有化粧品」の販売



第3回イノベーション部門優秀賞受賞

京都という環境だからこそ成長できた エイジングケア※物質「ナールスゲン®」

2005年に京都大学の平竹潤教授の研究室で生まれた化合物が、後にナールスゲン「NAHLSGEN: Nippon Amenity Health (based on) Life Scienceの頭文字+源(GEN)」と命名され、科学的根拠に基づくエイジングケア物質として開発されました。平竹教授は当初、「医薬品」としての開発を検討していましたが、しかし、平竹教授の先輩である弊社社長の松本和男は、製薬会社での経験から「医薬品」として認可を受ける難しさを痛感していたため、ほかの道を探すよう勧めます。その後、大阪公立(旧大阪市立)大学の小島明子准教授との共同研究で、ナールスゲンは皮膚細胞を元気にすることができ、皮膚の張り潤いに必要なコラーゲンやエラスチン等の細胞内での産生を促進することが分かりました。ここで新しいタイプのエイジングケア「化粧品原料」としての道が見えてきたのです。

2012年、共同研究に参画していた松本が創業し、化粧品原料ビジネスを開始。ようやく国内外の化粧品会社と取引できるようになりましたが、他社化粧品はナールスゲン以外にも多くの原料を配合するので、「ナールスゲンの効果が分かりづらい」と感じ始めました。そこで、松本が決断したのは、ナールスゲンが主成分で他原料を極力除いたシンプルな化粧品開発。化粧品の開発も販売も経験のない状況でしたが、完成した化粧水「ナールスミントプラス®」等の商品は新聞に取り上げていただき、百貨店等での販売を通して、リピーターを獲得し始めています。松本は「京都でなければ開発できなかった。だから京都に恩返しをしたい」とよく言います。ナールスゲンは化粧品原料として美と快適さ(Amenity)・しかも肌バリア機能を保つことで健やかさ(Health)を守る物質。私は松本の想いを継ぎ、京都に「美・健康長寿」という面から恩返しをしていきたいと考えています。

※年齢に応じたケア

👑 ビジネスプランの詳細はこちら



知恵-1グランプリ受賞企業支援メニューの一つである「個別広報相談会」等を通じて、SNSを活用した販路開拓の取り組みを後押しするほか、広範囲でのサポートを積極的に展開します。

京商からの支援